

地域とともにある学校づくりⅡ

—学校と地域のつながり—

国立教育政策研究所 志々田 まなみ



独立行政法人教職員支援機構

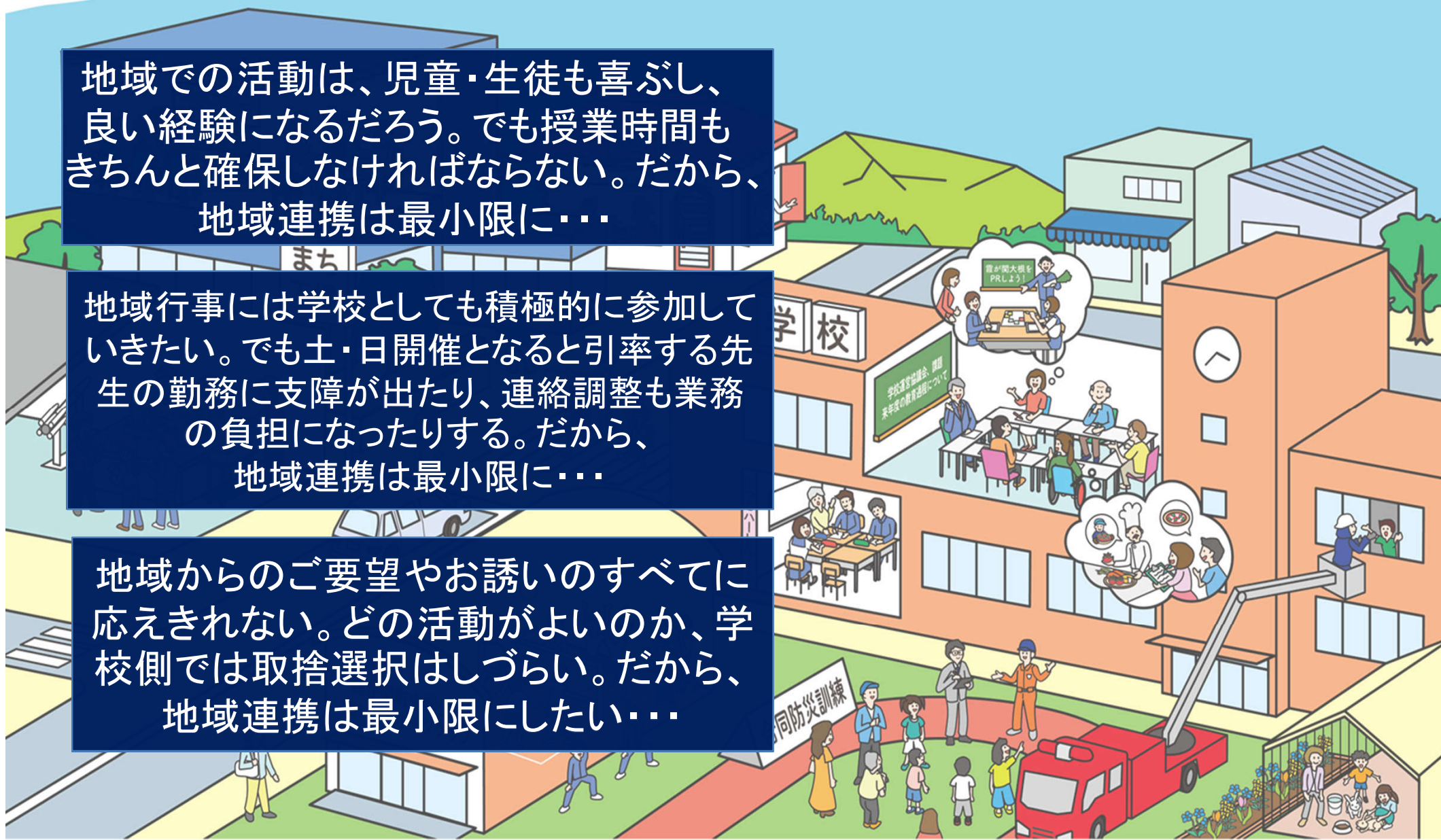
はじめに

地域連携は、総論賛成、各論反対！？

地域での活動は、児童・生徒も喜ぶし、
良い経験になるだろう。でも授業時間も
きちんと確保しなければならない。だから、
地域連携は最小限に・・・

地域行事には学校としても積極的に参加して
いきたい。でも土・日開催となると引率する先
生の勤務に支障が出たり、連絡調整も業務
の負担になったりする。だから、
地域連携は最小限に・・・

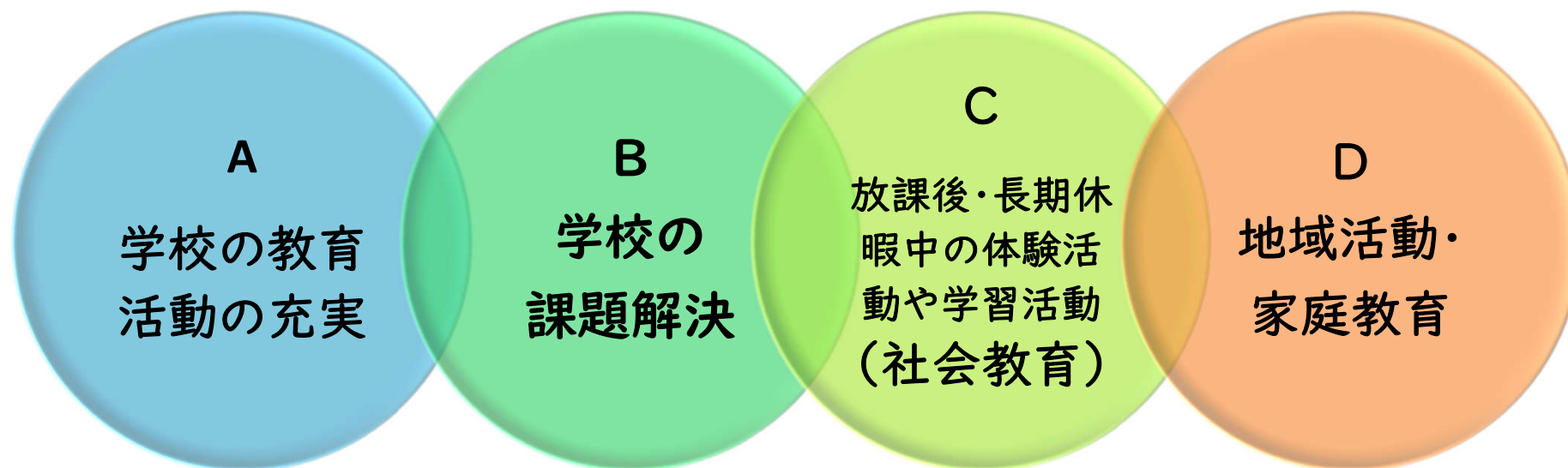
地域からのご要望やお誘いのすべてに
応えきれない。どの活動がよいのか、学
校側では取捨選択はしづらい。だから、
地域連携は最小限にしたい・・・



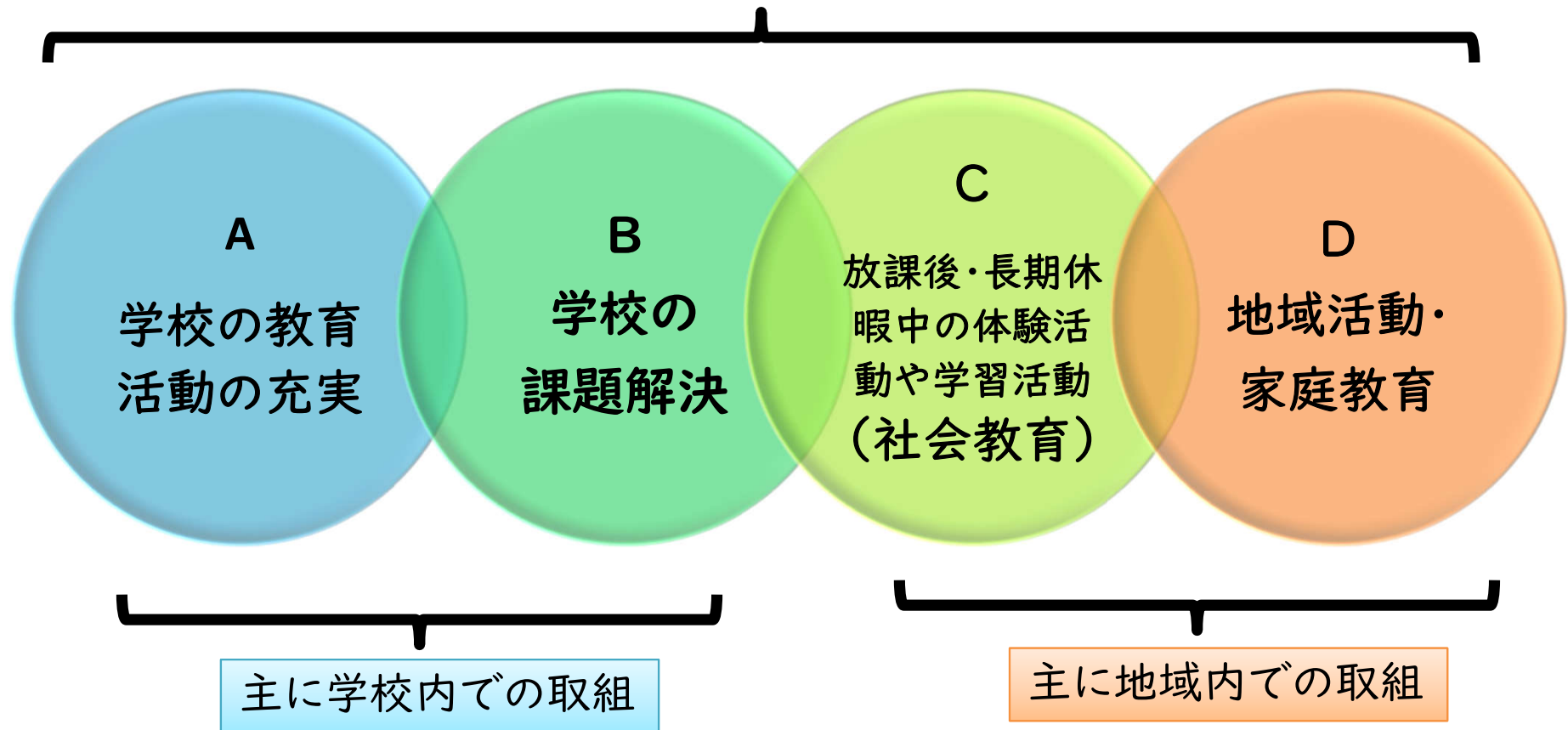
- 1 . コミュニティ・スクール（学校運営協議会）
の仕組みを活用した地域学校協働活動
- 2 . つなぎ役としての地域学校協働活動推
進員の重要性
- 3 . 学校と地域をつなぐコーディネートの事例

1. コミュニティ・スクール（学校運営協議会） の仕組みを活用した地域学校協働活動





地域学校協働活動



学校運営協議会

A
学校の教育
活動の充実

B
学校の
課題解決

C
放課後・長期休
暇中の体験活
動や学習活動
(社会教育)

D
地域活動・
家庭教育

主に学校内での取組

主に地域内での取組

好循環

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

2. つなぎ役としての 地域学校協働活動推進員の重要性





地域学校協働活動推進員

地域と学校をつなぐコーディネーター

社会教育法 第九条の七

- ① 教育委員会は、地域学校協働活動の円滑かつ効果的な実施を図るため、**社会的信望があり、かつ、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者のうちから**、地域学校協働活動推進員を委嘱することができる。
- ② 地域学校協働活動推進員は、地域学校協働活動に関する事項につき、教育委員会の施策に協力して、**地域住民等と学校との間の情報の共有**を図るとともに、地域学校協働活動を行う地域住民等に対する**助言その他の援助**を行う。

地域学校協働活動推進員の主な役割

● 地域や学校の実情に応じた地域学校協働活動の企画・立案

● 学校や地域住民、企業・団体・機関等の関係者との連絡・調整

● 地域ボランティアの募集・確保

● 地域学校協働本部等の地域学校協働活動を推進する組織体制の運営

● 地域住民への情報提供・助言・活動促進

etc...



2名の地域学校協働活動推進員が、それぞれの強みを活かして活躍

属性の異なる地域学校協働活動推進員(長年地域活動をされてきた方、自身のお子さんも特別支援学校に通われていた方)を2名配置し、子供たちが学校卒業後に地域の中で暮らしていくことも見据えた地域連携を進めている。また、学内に設置されるコミュニティルームが、推進員の活動拠点となっていることに加え、保護者や教職員との関係性を構築することにも大きな役割を果たしている。



基本情報

配置人数	推進員2名
配置単位	学校専属
任期	1年
学校運営協議会	委員を兼務

◎活動概要

- 長く地域活動に取り組んできた方1名、自身のお子さんも特別支援学校に通われていた方1名の計2名で活動に取り組んでいる。それぞれの持つネットワークや考え方が異なることが、活動の幅を広げている。
- 教員の授業支援(ニーズに応じて地域とつなぐ)、保護者支援、卒業生支援、地域ボランティアの募集及びとりまとめ、地域情報の紹介など幅広い活動を行う。

<具体的な活動内容(一部抜粋)>

- 「あおばエールプロジェクト(区内店舗が登録し、障害者の地域生活を応援)」の登録店舗への生徒によるインタビューを企画・調整
- 保護者が参加できるアートプロジェクトやイベント、懇親会等の情報提供、保護者の相談対応
- その他、様々な授業支援(田植え体験の企画、市の資源循環局への訪問調整、アートグループによる授業企画など)

◎活動時に意識していること

- 生徒たちは卒業後、地域の中で暮らしていくが、それまでにできる限り地域の事を知り、地域社会に出ることに慣れ、学校外の人と関わることに慣れてもらいたいという思いを持ち地域連携に取り組んでいる。
- 地域の人々にも、あおば支援学校のこと、障害を持つ子どもたちのことを知ってもらうことで、地域側の土壌を耕したいという思いもある。

◎コミュニティルームが集いの場に

- 校舎1階の出入り口付近に設置されているコミュニティルームは、地域学校協働本部を兼ね、推進員の活動拠点となっている。また、介助員、保護者など、学校を訪れる様々な主体の交流の場となっている(飲食も可能)。この場所があることで、互いに顔の見える関係性が構築できていることに加え、新たな活動のきっかけにつながっている。
- コミュニティルーム近くには、地域学校協働本部「あおばまる」のボードも設置されており、常に活動内容が更新されるなど、訪れた人々への情報共有の役割を果たしている。
- 教職員も、推進員に相談したいことがある時には気軽にコミュニティルーム訪れている。

◎学校運営協議会の部会に参加

- 推進員2名は学校運営協議会の委員を兼ねており、地域学校協働部会にも所属している。
- 教職員も参加し、「学校の未来」について話し合う熟議を行ったところ、教職員が推進員と協働した様々な企画の実現可能性を強く感じるようになり、これをきっかけにコミュニティルームへの顔出しが絶えなくなった。



校長

お二方の持つネットワークが有難いことはもちろん、推進員の方がいらっしゃるおかげで、教職員の引き出しや発想が広がってます。また、地域への広報的役割を担ってもらえている点も非常に有難いです。学校のことを発信することで、見学やボランティア参加にもつながっていますし、インクルーシブな社会の広がりにも貢献してくださっています。

探究学習や、地域課題の解決・地域活性化に専門性と経験を持つ推進員を配置し、学校での探究学習の企画や、地域との協働体制の構築を進めている。教員の伴走体制や、教員と推進員が互いの専門性を活かした連携や役割分担が、学校と推進員、地域一丸となった探究学習の推進に大きな役割を果たしている。



基本情報

配置人数	推進員2名
配置単位	学校専属
任期	1年
学校運営協議会	委員を兼務

◎活動概要

- 大学時代から地域にフィールドワークで関わり、その後移住を経て継続的に地域活性化に取り組んでいる方が推進員として活動に取り組んでいる。大学での専攻であった地域協働やプロジェクトマネジメント、ファシリテーションの知識と経験、また地域住民や地元企業等とのネットワークを活用し、高校の探究学習の推進役として活動を行う。

<具体的な活動内容(一部抜粋)>

- 探究学習の統括役である教員と共に、「総合的な探究の時間」をはじめとした生徒の探究学習の企画(年間計画策定やカリキュラム作り)
- 探究学習のための体制構築(地域住民と学校を繋げる際の人選や手配)
- 地域住民同士の繋がり作りによるネットワークの耕し
- その他、教員の負担軽減のための部活動支援や給食指導、学校行事運営のサポートなど

◎活動時に意識していること

- 学校の要望に応じた連絡調整を基本的なスタンスとしているが、教員のニーズを理解したうえで、その実現に向けた意見出しや、自らのスキルを活かした実践も積極的に行っている。
- 推進員は探究学習の企画においてリーダーシップをとるが、個別の生徒の見取りやサポートは教員が行うなど、役割分担をしている。

◎専門性を活かして探究学習をコーディネート

- 探究学習に関する専門性を持つ教員がまだまだ少ない中で、大学で探究活動や地域課題解決・地域活性化等について学んだ専門性を活かした推進員のアドバイスが、探究担当の教員の強いサポートとなっていることに加え、教員間の足並みを揃えることにも寄与している。
- 自らが地域住民として持つネットワークを駆使して、学校に様々な連携先を紹介することができている。特に学校からアプローチがしにくい地域の個人や民間団体とのネットワーク構築において、推進員によるコーディネートが価値を発揮している。

◎推進員、教員、地域が一丸となるためのサポート

- 推進員の就任時、職員室に専用の席が設けられていたことで、教員集団の中に飛び込みやすくなった。
- 探究学習の統括役である教員が、推進員と同じ専門性のバックグラウンドを持っており、当初から推進員のスキルや考えに理解を示していたことが、推進員が伸び伸びと活動できたポイントであった。
- また教員側から、学校現場については初心者であった推進員に、学校のルールや必要な知識、求められている役割について明確に示したことで、相互理解の上でふるまうことができた。



教員

教員だけで探究学習を行っていた際には、「課題解決」と「問題解決」の混同など、教員ごとに授業の方向性が異なる等の課題がありました。推進員の専門的な知識のおかげで、大分足並みが揃ってきました。また、地域の方との連絡・調整においても、地域に軸足を持った推進員からの声掛けは、地域側からとても歓迎されており、非常に助かっています。



高校コーディネーター

高校と地域・企業・大学などをつなぐコーディネーター

- 高等学校は、多様な入学動機や進路希望、学習経験など、様々な背景を持つ生徒が在籍し、高等学校の実態も多様化している背景から、高等学校の特色化・魅力化が一層進むことが期待されている。→新時代に対応した高等学校改革
- 「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、学校と地域・社会をつなぎ、総合的な探究の時間をはじめとした探究的な学びを教職員とともに推進する人材が求められている。
- 地域・社会の様々なセクターと持続可能なネットワークを構築し、豊かな学びの場を創造していく協働体制(コンソーシアム等)を運営する人材が求められている。



文部科学省
『高校コーディネーター
スタートガイドブック』(2025)

統括的な地域学校協働活動推進員

候補となる人材

- ・地域学校協働活動推進員やコーディネーターとして長年活躍した人
 - ・社会教育主事として活躍した経験のある人、社会教育士
 - ・校長や教職員の経験者で、地域学校協働活動の経験が豊富な人
 - ・PTA関係者、PTA活動経験者で地域学校協働活動の経験が豊富な人
 - ・地域学校協働活動に関する業務や調整の経験を有する人
 - ・地域活性化やまちづくり関係の地域の団体のリーダー
 - ・地域ネットワークの充実等に関わっている人
- 等



推進員が持続的に活躍できる組織・体制づくり

津島市では、各推進員が相談しながら持続的に活躍できるよう、各校への推進員の複数配置や、統括的な推進員の配置、計画的な研修の開催、協力人材の確保に取り組んでいる。市立藤浪中学校では、PTA役員を経験した保護者を中心とした5名の推進員がそれぞれの強みを活かしながら、募集チラシの作成、大学生や高校生のボランティアとのマッチングなど、学習支援教室を自律的に運営している。



基本情報

配置人数	推進員5名
配置単位	学校専属
任期	2年
学校運営協議会	委員を兼務

◎活動概要

- 津島市では市立小中学校全12校において計26名の推進員が活動しているほか、市教育委員会に所属する統括的な推進員が1名配置されている。
- 藤浪中学校では、同校のPTA役員を経験した保護者を中心に、行政職員なども含めた計5名が推進員として役割分担をしながら様々な活動に取り組んでいる。

<具体的な活動内容(一部抜粋)>

- 学習支援教室「NAMIKA」の運営：月曜日の放課後15時から、中学生の希望者を対象に、大学生・高校生のボランティアによって学習サポートを行う活動の企画・調整・運営。(令和4年度から開始)
- 登下校時の交通安全見守り、中学生に向けてのキャリア教育の企画・実施、中学生をボランティアとして地域に派遣する活動

◎活動時に意識していること

- 学習支援教室など平日・日中の活動が難しいメンバーはPCスキルを活かしてチラシ作成を担うなど、「できることをできる人がやる」を大切に推進員同士で役割分担を意識している。
- 中学校区外の人も活動に巻き込んだり、地域課題(地域イベントの人手不足等)と中学生のボランティア活動をつなげるなど、各推進員が他の地域活動で聞いた話を地域学校協働本部や学校運営協議会に持ち込んで、「活かせるものは活かす」ことを念頭に活動を企画している。

◎推進員が1人で悩まず、相談できる体制の構築

- 津島市では各学校において複数の推進員配置を基本としている。これは、各推進員が様々な場面で「誰に相談したらよいのか？」と困る際に、まずは推進員同士で相談できるようにすることを意図している。
- また、津島市では各地域学校協働本部の本部長や、教育委員会に所属する統括的な推進員が、推進員の相談先として明確になっており、推進員が孤立しなくて済む体制が構築されている。
- この他、年間3回以上の定期研修会を開催し、市内各小中学校で活動する推進員同士が悩みを出し合ったり、対応を熟議したりすることができる機会・時間を設けている。

◎多様な活動を持続的に行うための人材確保

- 地域学校協働活動を行う上では、推進員だけでなく協力者・ボランティアの存在が欠かせないことから、市では市内中学出身の大学生・高校生とのネットワークづくりに取り組んでいる。
- 愛知県及び近隣県の教員養成課程を持つ大学、津島市内に立地する高校に、学習支援や読み聞かせへの参画依頼を行い、令和5年度現在、大学生60名程度、高校生30名程度がボランティアとして登録している。各校の推進員がボランティアと各校の各活動とのマッチングを行っている。



校長

学習支援教室の活動は推進員の方々によって自立的に運営されており、学校の関与は、場所提供と募集のお手伝いくらいです。
学校には生徒と教員しかいないのが普通ですが、同教室では推進員がコーディネートした地元出身の大学生や高校生、地域の様々な大人との接点があり、生徒たちは、多様な関わり方を学んでいるように感じています。

学校と地域とをつなぐ体制

学校と地域をつなぐコーディネーターが働きやすい環境

1	毎年度当初、児童・生徒、教職員、地域住民に連携活動の意義や成果、コーディネーターの紹介・役割を説明する
2	正式な手続きを経てコーディネーター役を任命する (役割・分掌の明確化、名刺や名札等の用意、研修機会の確保)
3	なるべく一つの学校に複数名のコーディネーターを配置し、相談や分担をしながらチームとして活動する
4	学校内での取組を契機に、児童生徒・地域住民が地域内活動等への関心や意欲が高まる(逆も)よう意識する
5	学校管理職だけでなく、教育委員会の統括的なコーディネーター、CSアドバイザー等に相談する仕組みを確保する
6	校内に気軽に使用できる専用スペース等がある
7	教職員等と連絡・情報共有がしやすい仕組みを作る
8	学校運営協議会(類似の会議体)に参加する
9	近隣校のコーディネーター等とネットワークがある
10	地域の社会教育施設や地域活動の諸機関・団体とネットワークがある

統括的な地域学校協働活動推進員

候補となる人材

- ・地域学校協働活動推進員やコーディネーターとして長年活躍した人
- ・社会教育主事として活躍した経験のある人、社会教育士
- ・校長や教職員の経験者で、地域学校協働活動の経験が豊富な人
- ・PTA関係者、PTA活動経験者で地域学校協働活動の経験が豊富な人
- ・地域学校協働活動に関する業務や調整の経験を有する人
- ・地域活性化やまちづくり関係の地域の団体のリーダー
- ・地域ネットワークの充実等に関わっている人 等



社会教育士ってなに？

What?

行政・NPO・企業など様々な分野で活躍しています



社会教育士



私たちのまちや暮らしにある様々な課題。

その課題の解決に向けて、地域に暮らすみなさんを支えるのが

「社会教育士」です。

3. 学校と地域をつなぐコーディネートの事例

ONE TEAM



学校と地域とを効果的・効率的につなぐコーディネート

事例) 鹿児島県志布志市伊崎田中学校の事例



保健体育科の1時間分で相撲を実施



波及効果＝地域活動への自主参加

地域の伝統的活動「伊崎田相撲」(相撲クラブ)



大会参加者数の減少が学校運営協議会内で話題に

コーディネーターの担い手が、相撲クラブの指導者と保健体育科の教員との間を調整

- ①保健体育科の必修である武道として位置づけ、相撲による達成目標を確認
- ②男女が一緒に安心して参加できるよう指導上の配慮・工夫を協議
- ③相撲大会は地域の行事であり、学校が参加者募集や引率、運営を担うわけではないことを確認

学校と地域とを効果的・効率的につなぐコーディネート

事例) 鹿児島県志布志市伊崎田中学校の事例



地域の伝統的活動「伊崎田相撲」(相撲クラブ)



大会参加者数の減少が学校運営協議会内で話題に

教育課程や各教科の教育目標と地域資源とを効果的・効率的につなぐ

互いの専門性を活かし授業の質を向上し、学習評価等の視点も明確に

授業と地域課題の解決をつなぎつつも、学校活動と地域活動の区分は明確に

コーディネーターの担い手が、相撲クラブの指導者と保健体育科の教員との間を調整

- ①保健体育科の必修である武道として位置づけ、相撲による達成目標を確認
- ②男女が一緒に安心して参加できるよう指導上の配慮・工夫を協議
- ③相撲大会は地域の行事であり、学校が参加者募集や引率、運営を担うわけではないことを確認

おわりに

地域連携は、総論賛成、各論反対！？

地域での活動は、児童・生徒も喜ぶし、
良い経験になるだろう。でも授業時間も
きちんと確保しなければならない。だから、
地域連携は最小限に・・・

地域行事には学校としても積極的に参加して
いきたい。でも土・日開催となると引率する先
生の勤務に支障が出たり、連絡調整も業務
の負担になったりする。だから、
地域連携は最小限に・・・

地域からのご要望やお誘いのすべてに
応えきれない。どの活動がよいのか、学
校側では取捨選択はしづらい。だから、
地域連携は最小限にしたい・・・

連携活動によって見込まれる
学習成果を明確にし、授業の中に
効果的に位置づけ・評価し、改善する
(カリキュラム・マネジメント)

すべてを全員参加の学校活動
として実施せず、一部の児童・生徒
が地域活動として参加しやすくなる
きっかけ・関係づくりをすすめる
(学校と地域の連携・分担)

児童・生徒、地域の実態等について、
多様な関係者とともに議論しながら
特色ある教育活動を明確化し、評価・
改善しながら継続的な学校運営を行う
(学校ガバナンス)